

報告書名：常滑市における 8020 達成者と対照者についての生存分析

研究者名：森田一三、中垣晴男

所 属：愛知学院大学歯学部口腔衛生学講座

抄 録：

#### 【目的】

8020 達成者群と、対照の非達成者群について 10 年後の追跡調査を行い、生存状況の違いについて明らかにすることを目的とした。

#### 【対象および方法】

対象者は 1992 年に常滑市在住の 20 歯以上保有の者 59 名（男性 24 名、女性 35 名）を対象者（8020 者）とした。また、これら対象者に対し性、年齢、地域分布、をマッチさせた者を選定し、対照者（コントロール）とした。分析は、ベースラインからの生存月数を用いて行った。すなわち得られたデータより調査開始からの生存月数を求め、8020 達成者群と非達成者群の生存率を男女別に Kaplan・マイヤー法にて求めた。また、ベースラインから 3 か月ごとを区切りとし、生存率の違いを Log Rank 検定を用いて分析を行なった。

#### 【結果】

ベースライン時の対象者は男性の 8020 者が 24 名で平均年齢は  $82.3 \pm 0.78$  (平均  $\pm$  SE) 歳、コントロールは 24 名で平均年齢は  $82.2 \pm 0.77$  歳、男性の 8020 者が 35 名で平均年齢は  $81.6 \pm 0.42$  歳、コントロールは 35 名で平均年齢は  $81.5 \pm 0.40$  歳、であった。保有歯数の状況は男性の 8020 者で 20 から 25 歯保有する者は 16 名、26 歯以上保有する者は 8 名であった。コントロールは 0 歯の者が 10 名、1 から 4 歯の者が 8 名、5 から 9 歯の者が 3 名であり、10 から 19 歯の者が 3 名であった。女性の 8020 者で 20 から 25 歯保有する者は 27 名、26 歯以上保有する者は 8 名であった。コントロールは 0 歯の者が 21 名、1 から 4 歯の者が 8 名、5 から 9 歯の者が 3 名であり、10 から 19 歯の者が 3 名であった。平均保有歯数は男性の 8020 者は  $23.9 \pm 0.6$  (平均  $\pm$  SE) 歯、コントロールは  $3.8 \pm 1.1$  歯、女性の 8020 者は  $23.8 \pm 0.4$  歯、コントロールは  $2.6 \pm 0.8$  歯であった。

2002 年 8 月時点での生存者数は男性の 8020 者は 24 名中 14 名、コントロールは 24 名中 10 名、女性の 8020 者は 35 名中 22 名、コントロールは 35 名中 23 名であった。

8020 者とコントロールの累積生存率についてベースラインから 3 か月経過ごとに Log Rank 検定を行った。その結果男性では 12、15、24、27、72 か月経過時に 8020 者とコントロールの間で生存率に差のある傾向 ( $p < 0.1$ ) が見られた。また、18、21 か月経過時に 8020 者とコントロールの間で生存率に有意な ( $p < 0.05$ ) 差が見られ、8020 者は累積生存率が高かった。女性においては 8020 者とコントロールの累積生存率の間に有意な差は見られなかった。

#### 【考察】

8020 達成者とコントロールでは女性では生存率に差が見られず、男性において差が見られたのは、女性は自ら食事を作ることにより、自分の咀嚼能力の低下を補っているのではないかと考える。

8020 運動をさらに発展させるには、8020 を達成するための方法論の確立と、8020 を達成することにより、健康で快適な生活がおくれることを示していくことが大切と考える。